



第32期

1年間の農山村貢献活動

# 緑のふるさと協力隊

## - 受入先募集要綱 -

活動  
期間**2025年4月4日(金)～  
2026年3月15日(日)**

### 目次

緑のふるさと協力隊とは	P.1
協力隊の仕組み	P.3
受入先と参加者	P.4
活動と暮らし	P.5
1年間の流れ	P.7
活動終了後の進路	P.9
協力隊を受け入れてみて	P.10
受入れの概要	P.11
Q & A	P.13
受入れ実績のある市町村一覧	P.14

主催：特定非営利活動法人 地球緑化センター

後援：内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、(公財)日本離島センター、**NHK**  
日本青年団協議会、(公社)国土緑化推進機構、全国水源の里連絡協議会、(特非)中山間地域フォーラム(順不同)

# 緑のふるさと協力隊とは

「緑のふるさと協力隊」は、1994年に始まり31年間継続して実施している1年間の農山村貢献活動です。農山村の現状や暮らしに関心を持つ若者が一人の住民として暮らしながら、地域のお手伝いに取り組みます。

参加する若者にスキルや経験は求めません。農山村の人々とおおいに関わって暮らしながら、多種多様な活動にひたむきに取り組みます。協力隊が活動と暮らしを通して、人と人をつなぐ接着剤となり、地域の「内なる力や魅力」を掘り起こす。それが、農山村の活力につながっていきます。

また、活動を終えた隊員の約4割がその地に定住する選択をしています。活動で養われた地域を見る視点や経験から、社会に求められる存在として活躍の幅が広がっています。農山村での暮らしは若者にとって自分を客観的に見つめ、新しい価値観や人生観を得るまたとない機会になっているのです。



## ドラマを生む活動の多様性

協力隊は農林畜産漁業をはじめ観光や福祉、教育など様々な分野の活動を通して地域おこしを手伝います。地域の方と共に汗を流す場を提供していただくことで、隊員は、「地域のために何ができるか」が見えてきます。

一人の若者が1年間でできることは多くありません。しかし、「後継者不足のために消えてしまう神楽を盛り上げたい!」と隊員が仲間を見つけ神楽教室を開いたことで神楽が復活し、今では祭りのメインイベントになったという例も。

「行政・住民といった枠を飛び越えた隊員には地域を動かす力がある」と受入先担当者が語るように、協力隊一人ひとりの思いと、地域の人々の思いが繋がって、思いがけないドラマがいくつも生まれています。

## 月5.5万円の暮らしだからこそ

協力隊は社会貢献活動という位置づけであるため、給料がありません。その代わりに受入先が住居と光熱水費を負担し、隊員には生活費として毎月5.5万円が支給されます。必要なものは何でも「買う」都会の生活とは違って、農山村の暮らしは「工夫する」知恵にあふれています。畑で野菜を作ったり、木や竹などの資源を使って技をもつ達人に棚やカゴ作りを教わるなど、隊員にとっては「生きる力」を身につける絶好の機会です。

一方、地域の方にとっても地域貢献活動として取り組む懸命な若者の姿は刺激となり、隊員の応援団が増えていきます。地域社会ならではのつながりが協力隊の暮らしを支え、5.5万円だからこそその心豊かな毎日を過ごすことができます。



## 地域、役場、隊員が 一緒になって歩む1年間

参加する若者は、それぞれ個性や特性を持っています。元気いっぱいですぐに地域の人気者になる隊員もいれば、なかなか前に出られないもののじっくりと活動を深めていく隊員もいます。また、「初めての一人暮らし」「社会に出るのが初めて」という隊員も。隊員には派遣前の事前研修でルールや心構えなどを伝えていますが、暮らしになじむまでに時間がかかり、派遣当初はご苦労をおかけすることがあるかもしれません。



「いまひとつ積極的ではない」「今年の隊員と違う」と少しの期間で判断せず、まずは地域のいろいろな面にふれる活動をさせてください。体を動かし、交流を重ねることで経験値や人間関係も広がり、隊員自身から「地域のために自分が貢献できること・やってみたいこと」が紡ぎ出され、新たな活動へと展開していくでしょう。1年間というじっくり腰を据えた活動だからできること。それが隊員の「人間力」を高めるきっかけとなり、地域に思いもよらない変化や出来事を引き起こします。



## 4割が定住、そして 「第2のふるさと」へ

協力隊に参加する若者の約4割が活動終了後、農山村に定住するなどし、農林畜産業、行政、観光、福祉、教育、食、地域づくりなど様々な分野で活躍しています。多くの若者がそのまま残るのは、協力隊の1年間が「体験」ではなく、生き方そのものに影響する機会になっているからでしょう。人とのつながりを深めるなかで「どこかに就職する」というよりも「どこでどうやって生きるか」という視点を育み、農山村に自分の生きるフィールドを見出しています。また、定住なくても派遣先へ通い、一番の応援者・情報発信者として都市と農山村をつなぐ架け橋になっています。協力隊は1年限りでは終わらない。そこがこの事業の一番の魅力かもしれません。

# 協力隊の仕組み

## 安心して参加できる体制とそれぞれの役割

-充実した1年にするため-

### 連絡・調整

隊員と受入先の連絡調整役として、円滑な現地活動を年間を通してサポートします。

### 事業実施主体

隊員や受入先を募集し、選考や研修を実施するとともに、活動の可能性を高めるために国や自治体、各種団体に協力を呼びかけています。

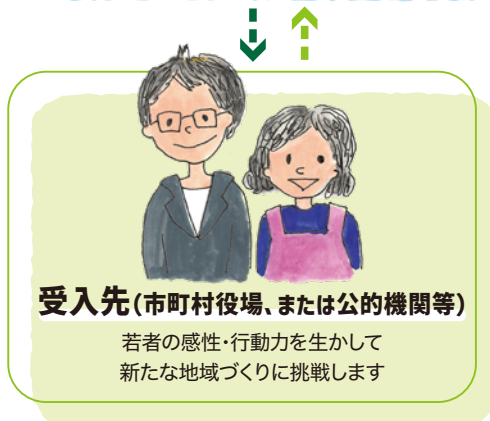


### 活動環境の整備

地域住民に事業の理解と協力を要請したり、生活費や住居の提供などをします。

### 相談

活動内容や日常生活の相談を受け、アドバイスをします。



### 地域貢献活動

受入先で実施するさまざまな地域活動に、住民と共に取り組みます。

### 情報発信

市町村の魅力・課題を内外へ発信します。

「緑のふるさと協力隊」は、①協力隊となる若者、②若者を受け入れる受入先、③両者を結ぶ地球緑化センターの三者がそれぞれの役割を担い連携することで成り立つ地域貢献活動です。

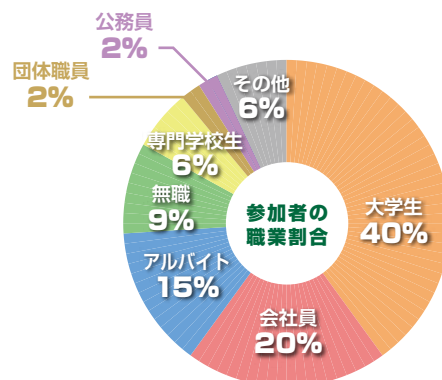
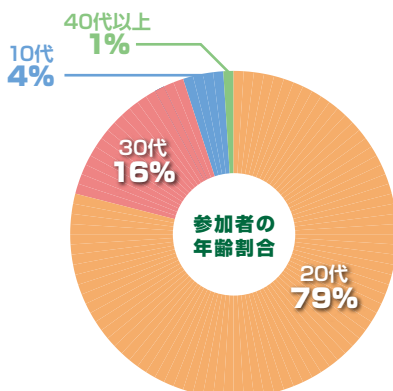
協力隊に参加するのは、学生や会社員、アルバイトなど、専門知識や特別なスキルを持たない普通の若者です。求めるのは農山村への情熱と地域の応援者になろうという思い。1年間という長期にわたる活動のため、地域に溶け込む謙虚さ、やり抜く意志や

情熱を面接で確認します。そして、研修を通して地域に入るための心構えや協力隊としての姿勢を学んでから派遣されます。

地球緑化センターは、31年間・850名以上の若者の悩み、挑戦をサポートしてきた実績をいかし、電話や訪問、研修を通して1年間サポートできる体制を整えています。状況に応じ受入先と隊員の間に立ち、双方にとって充実した活動にするための調整に力を入れています。

## 参加者動向

1994年度(第1期) - 2024年度(第31期) / 856名



# 受入先と参加者

2024年度(31期)緑のふるさと協力隊

**1**  
山形県  
小国町

15★周年  
の  
イベントを開催する

**佐々木 佑真**  
大阪府・大学生(休学)

**2**  
福島県  
川内村

食ること  
寝ること

**大槻 智士**  
神奈川県・大学生

**3**  
群馬県  
上野村

未知の  
探求

**三宅 伸幸**  
高知県・大学生(休学)

**4**  
長野県  
泰阜村

積極的に  
楽しみ尽くす

**大原 理彩子**  
大阪府・大学院生(休学)

**5**  
愛知県  
豊根村

ま直に😊  
糸の自分で

**清水 友貴子**  
東京都・会社員

**6**  
石川県  
白山市  
(白峰地区)

素直

**前田 聡子**  
愛知県・会社員

**7**  
福井県  
坂井市  
(竹田地区)

人の緑を  
受け  
感謝  
チャレンジ精神を持ち続ける

**池田 英樹**  
東京都・大学院生

**8**  
岡山県  
鏡野町

握る

**豊島 裕香子**  
東京都・大学生(休学)

**9**  
岡山県  
鏡野町

何事にも焦らず  
できるところから  
可能性を広げる

**太田 航平**  
福島県・会社員

**10**  
高知県  
大川村

全力で  
楽しむ

**都築 有沙**  
東京都・アルバイト

**11**  
宮崎県  
諸塚村

自分から積極的に「伝える」  
聞かずしては  
飛び込め、やってみる

**垣内 麻梨乃**  
福井県・団体職員

**12**  
宮崎県  
諸塚村

生き延びる

**吉田 陸人**  
神奈川県・アルバイト

**13**  
宮崎県  
日之影町

いろんな  
価値観に  
触れる

**大宮 好誠**  
東京都・大学院生(休学)

◆ 第31期協力隊データ  
 派遣人数: 13名(男性7名、女性6名)  
 (社会人6名、学生7名(うち休学5名))  
 平均年齢: 26.3歳  
 受入先自治体数: 11市町村

①山形県・小国町(15)  
 ②福島県・川内村(1)  
 ③群馬県・上野村(28)  
 ④長野県・泰阜村(11)  
 ⑤愛知県・豊根村(18)  
 ⑥石川県・白山市(白峰地区)(25)  
 ⑦福井県・坂井市(竹田地区)(11)  
 ⑧⑨岡山県・鏡野町(23)  
 ⑩高知県・大川村(10)  
 ⑪⑫宮崎県・諸塚村(21)  
 ⑬宮崎県・日之影町(31)

※( )の数字は受入回数

※名前の下は参加前の住所・職業

# 活動と暮らし

## 活動スケジュールの組み立て方

協力隊は特別なスキルを持っているわけではないため、1つのミッションに特化した専門的な活動ではなく、多種多様な場面でのお手伝いが基本です。地域の様々な場面に関わり、加えて青年団、スポーツ・サークル活動、消防団、地域行事などへの参加、地域住民としての暮らしを経験できるような活動が望まれます。

活動の基本は、受入先自身が若者の熱意を活かして地域をどうしていきたいか、ということにあります。活動と暮らしを通して謙虚に学び、自分の生き方を見つけていこうとする若者たちにとって、「地域をこんな風にしたい」という目標を地域の人と共有できることが、やりがいにつながっていくのです。





### 農業・林業

農業…野菜・米・花卉・果樹栽培収穫／観光農園手入れ／農協(ラベル貼り・育苗センター・苗運び)／米検査など

林業…森林組合(下草刈り・枝打ち・間伐など)／伐採木の片づけ／炭焼き／登山道・林道整備／竹林整備／木材加工／林産物生産(きのこ類・山菜)／台風被害記録



### 畜産・漁業

畜産…牛舎清掃整備／牧柵整備／和牛コンテスト／衛生検査／注射／放牧調査／イノブタ飼養／牛のセリ市／養鶏など

漁業…トビウオ漁／海苔工場／アユ放流／養魚池整備／カキ漁など



### 食・特産品づくり

農産物加工…大豆加工(豆腐・きな粉)／味噌／ジャム／こんにやく／山菜など

保存食・伝統食づくり…郷土料理レシピまとめ／五平餅／ちまき／しそ餅／凍み豆腐／凍み大根など

特産品開発…住民アンケート実施／地域の銘菓開発(梨蜜・ボン菓子・桜の花塩漬)



### 観光・イベント

地域行事…山開き／餅つき／山の神祭り／七夕祭り／民俗芸能祭／夏祭りなど

伝統芸能…祭り／夜神楽／農村歌舞伎／和太鼓／よさこい／阿波踊りなど

観光…道の駅／キャンプ場／国民宿舎／観光案内所／体験施設／物産館／直売所／出張物産販売など

地域おこしイベント…山菜まつり／キャンドルナイト／マラソン大会／花火大会など



### 福祉・お年寄り

福祉施設…ふれあいサロン・デイサービス／社協作業所／リハビリセンター／保健センター／健康診断手伝い

自宅訪問…高齢者住宅巡回(聞き取り・配食サービス)／高齢者宅清掃(窓ふき・障子張り)



### 教育・子ども

学校行事…読み聞かせ／清掃登山／ALT 英語講師補助／プール清掃／運動会／学童保育／音楽会／図書館の本整理／自然学校指導補助／体験学習受入(村内・都市部)

山村留学施設…指導員補助／食事補助／子どもたちのお世話

公民館…公民館・児童館行事／文化祭／資料館・交流館受付対応／スポーツセンター



### 情報発信

ケーブルテレビ取材・番組キャスター／FM ラジオ出演／ブログ・SNS更新／ホームページ更新／広報誌連載／自主制作新聞



### 集落活動

青年団／消防団／婦人会／自治会／子ども会／老人会／寺社清掃／側溝泥上げ／集落見回りなど



### 手しごと

木工細工／竹細工／わら細工／つる細工／正月飾り(しめ縄・門松)／紙すき／桐下駄／染め物など



### 生活維持

草刈り／雪かき／冬支度／クリーンアップイベント／獣害対策(鹿よけ網・イノシシ箱わな設置)／薪割りなど



### 役場事務手伝い

交通量調査／防火訓練／歳末夜間パトロール／転作確認／観光パンフ・マップ作成／水質調査／獣害調査／選挙運営手伝い／台風被害復旧作業など



## 活動事例

# 1年間の流れ

## 最初の3カ月は多様な活動プログラム提供を!! (4月▶6月)

初めての土地で新しい生活のスタートです。早く地域にとけこめるよう、最初の3カ月は切れ目のない様々な活動をご準備ください。その中で、隊員たちは地域の人たちと人間関係を広げ、名前を覚えたり、方言に慣れたりできます。また、活動以外の日常生活の中でも地域との接点を増やし、サークルや行事などにも積極的に参加できるよう、まずはコミュニケーションの広がりにご協力ください。

## 隊員の個性や特技を活かして… (7月▶9月)

夢中で過ごした最初の3カ月に比べると、周囲の環境が見えてきて、生活が一段落する頃です。夏を迎え、活動にも慣れてくるとともに、その幅も広がります。自分なりに楽しみも見つけられるようになってくるのもこの頃です。隊員とのコミュニケーションをよくするために、定期的にミーティングを持ち、活動内容や日程、生活などについて指導・助言をお願いします。

## 不便さを楽しみながら、活動に広がりをも!! (10月▶12月)

すっかり地域にとけこみ、自分の個性や目標を地域の特性に合わせて活動に取り組めるようになってきます。同時に、自分にできることは何なのかを考えることも多くなります。活動の面でも、気持ちの面でも、協力隊員としての役割をそれまでよりも強く意識するようになります。地域と隊員の特性を調整しながら、新たな活動に展開できる可能性もあります。

## 協力隊を経て新たな進路へ… (1月▶3月)

活動のまとめの時期に入っていきます。地域の中での報告会など、お世話になった方々への感謝の意味を込めて何か残せるような取り組みができますら、隊員自身のまとめにもなり、成果を地域の方々と共に共有できる機会になります。一方で4月からのことを考える時期でもあります。受入先担当者や当センターは、受入先への定住を含め、活動終了後の進路について相談・アドバイスを行います。

## 協力隊の年間活動スケジュール (予定)

### 事前研修 (4月・4泊5日)

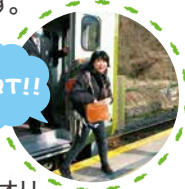
派遣される協力隊全員が集まり、講座やフィールドワークを通して、現地活動に向けての心構えを学びます。また、派遣される自治体は違えども1年間を共にする心強い同期の仲間との絆を深めます。



### 4月 現地活動の開始

事前研修地から直接受入先へ向かいます。到着後、受入先担当者から活動と生活についてオリエンテーションを受けます。挨拶回りが終わったら、早速活動スタート。

START!!



### 7月 受入先訪問

地球緑化センター事務局が受入先を訪問し、隊員や受入先担当者らと面談をします。

### 9月 中間研修 (9月・2泊3日)

活動や暮らしにもすっかり慣れてきた頃。前半の活動を振り返り、後半に向けて目標を再確認したり、気持ちを新たにしている研修です。半年ぶりに同期に会い、刺激を受けることも。中間研修で得たヒントを持ち帰り後半の活動に活かしていきます。

### 1月 進路相談

任期終了後の進路について、地球緑化センターや受入先が相談のります。

### 3月 総括研修 活動報告会 (3月・3泊4日)

1年間の活動をまとめる研修です。報告書の作成とともに「活動報告会」を開催し、多くの方に活動の成果を報告します。



GOAL!!



#### ◆ 報告書の提出 (当センターへ提出)

各月ごとに「活動レポート」、研修ごとに「報告書」を作成し提出します。

#### ◆ 「ふるさと通信」の発行

年2回、隊員が持ち回りで、地域の様子を「ふるさと通信」として発行します。地元の人にも気づかなかった地域の魅力や課題などを自分の言葉で伝えています。





## 住居について

生活費同様、住居についても質素を信条としています。自炊ができ、健康で農山村らしい暮らしができる住環境であれば結構ですが隊員が地域にとけこみやすく、安心して生活でき充実した活動につながるよう可能なかぎり隣近所と近いところを希望します。なお住居に入浴施設がない場合は、銭湯代の支給もしくはもらい湯等の対応をお願いします。

※住居の例：市町村営住宅・教員住宅・一般住居借上げ(空き家)等

## 保険について

当センターでは、隊員が活動中ケガをしたり、誤って他人のものを壊してしまった場合等、万が一に備え、以下のような保険措置を隊員全員に講じます。事故が生じないように常に隊員各自責任を持って健康管理に取り組みます。なお、危険を伴う活動を行う場合(例：チェーンソー等動力を使用する、カヌー・ラフティング等海や河川でのスポーツが含まれる活動をする)は、必ず十分な研修を受けさせ、別途保険に加入してください。

### 普通傷害保険

活動中以外の時間に何か起こった場合にもサポートできるよう、24時間補償タイプの傷害保険に加入します。

- ① 適用範囲 24時間補償タイプ
- ② 補償期間 協力隊活動期間(研修中も含む)

## 第30期(2023年度)宮崎県日之影町派遣 森 琴子さんの場合 大学生(休学)→緑のふるさと協力隊



- 4月 挨拶まわり、地域の行事(山菜祭り、大日止歌舞伎)、地域の活動(一心園(お茶)、旬果工房テラス(ジャム))  
挨拶回りに行くと、どこでも「今年も緑の子来たね。」と声を掛けられた。昨年度までのOBOGの方の存在の大きさを感じた。
- 5月 稲の種まき、植樹用の苗の準備、わらび粉づくり、地域の活動(宿泊学習参加、唐揚げフェス、川開き)  
作業をしながら話す中で、地域のことを考えている人が多いと感じた。特に、今あるものをどのようにして残していくかという話をよく聞いた。高齢化が進む中で町を維持し続けることの難しさを感じた。
- 6月 農作業(田植え、梅ちぎり)、わら細工、用水路掃除、青雲朝市、日之影中学校の近未来会議見学  
日之影中学校の近未来会議に参加して、日之影町の課題を解決する難しさを感じた。どの問題でも解決のポイントとなるものは「ヒト」だと思った。
- 7月 地域活動(梅のシロップ作り、田んぼの除草、キンカンの摘果)、大人集落の水神祭り、近未来会議のフィールドワーク  
農家の人とお話ししていると赤字であっても畑や田んぼを荒らさないために続けている方が多いと知った。6次産業化することが持続可能な農業とするために必要なことのひとつではないかと思った。
- 8月 地域の活動(山学校、「夏まつりひのかけ」、ソフトボール大会)、農作業手伝い(キンカン摘果、トマト収穫)  
「夏まつりひのかけ」のお手伝いをして、日之影に知っている人がたくさんできたと感じた。声を掛けてくれる人や手を振ってくれる人がたくさんいて嬉しかった。
- 9月 中間研修、農作業(栗拾い、草刈り、ヘチマの収穫)、地域の活動(大日止歌舞伎、ミニバレー大会)、若葉の受け入れ準備  
中間研修があり、もう半年経ったのだと時間の速さに驚いている。あと半年何を頑張るか、またどうやってやりたいことを活動に落とし込むのかということを考えていきたい。
- 10月 若葉のふるさと協力隊受け入れ、渓谷祭り、農作業(栗の皮むき)、地域活動(大日止神楽)  
渓谷まつりにあわせて町主催の緑のふるさと協力隊30周年事業が行われ、日之影に派遣された歴代隊員の方たちにお会いできた。節目の年に来たからこそつながったご縁も沢山あった。

## 移動車について

活動に必要な移動手段の確保のため、必ず車をご用意ください(ガソリン代含む)。自賠責保険・任意保険(免責なし)にも必ずご加入ください。また、町村内の買い物程度であれば、可能な範囲で活動外使用をご検討くださいますようお願いいたします。

## ボランティア保険(賠償責任保険・傷害保険)

- ① 適用範囲  
活動中に協力隊員が傷害を受けた場合、あるいは第三者の身体・財産に損害を与え、慰謝料・見舞金・賠償金を請求された場合
- ② 補償期間 協力隊活動期間(研修中も含む)
- ③ 補償内容 下表の通り(参考:2024年度版)

### A:賠償責任保険

対物事故 1事故につき5億円(限度額)  
対人事故 1事故につき5億円(限度額)

### B:傷害保険(協力隊員自身の事故)

通院 7,000円/1日(最大90日)  
入院 12,000円/1日(最大180日)  
後遺障害 後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害  
保険金額の100%~42%  
死亡 1,600万円

## 先輩の活動

- 11月 地域の活動(「第2のふるさと」、「わけもの主張」準備)、神楽まつり、わら細工(しめ縄づくり)、農作業(芋ほり、柚子・かぼす収穫)  
写真や動画など少しずつ好きなことが活動としてできるようになり、さらにそれをほめてもらえる環境で活動できていることが幸せだと感じた。
- 12月 地域行事(「わけもの主張」本番、自遊学校防災キャンプ、夜神楽練習)、大根の漬物づくり、わら細工(しめ縄づくり)  
しめ縄づくりは0から完成まで全て手作業で行われているところに魅力を感じた。手間を考えると値段以上の価値があるのではないかと思った。
- 1月 地域の行事(成人式、出初め式、餅つき、凧揚げ、ひな人形の飾りつけ)、夜神楽本番、醸造所の手伝い、  
地域の方と話していて「日之影の好きなのは人が優しいところなんです」と言った時に、「人は鏡だから」と教えてくださった方がいた。すごく素敵なお方だなと感じた。
- 2月 田おこし、炭焼見学・炭だし、日向夏の収穫、芋餅づくり、味噌づくり、町民の集い(広報用カメラマンとして)、挨拶回り  
2月後半から挨拶回りを始めた。ご挨拶に何う人をリストにしていたら、この1年ですごくたくさんの方に関わっていただいたのだと知った。
- 3月 挨拶まわり、バレーボール大会、道の駅、送別会  
挨拶まわりで「また帰っておいで」とか「いつでも待ってるよ」と言っていた。いつでも帰ってこれられると思えるような場所になったことが嬉しい。



## 休日の過ごし方

地域の方のお家にお邪魔してご飯を食べさせていただくことが多かったです。活動中には時間がなくて話せなかったことや活動ではお会いすることが難しい方とお話できたことで、地域のことを深く知り、自分自身の生き方や将来像を考えられる時間となりました。

## 印象に残っているエピソード

中学校の近未来会議でのエピソードです。中学3年生の生徒さんと話している際に、日之影町が好き、一度町を出たとしてもいつかは日之影町に戻ってきたいという声を聞きました。住んでいる子ども達が自分の住んでいる町を好きだと思えるような環境であることがとても素敵なことだと感じました。

# 活動終了後の進路

## 農山村での就職

### 第29期 福井県坂井市派遣 水谷 泰志さん

参加時：22歳、大学新卒  
現在：森林組合、同市在住



大学を卒業後そのまま協力隊に参加したので、任期を終えてからの進路にはかなり頭を悩ませました。任期中盤から愛知に戻ることを少し考えましたが、大学時代の就活で何も掴めなかったという事もあり、地域の方の紹介や助言に頼る事を選びました。そんな中紹介された、坂井市の森林組合の職場や現場を見に行き、覚悟半ばのままだったものの、面接を受けました。現在は、毎朝竹田から峠を下り、森林組合に出社して、現場に出て仕事をしています。自分で働いて生活していくこと。就活時代には芽生えなかった覚悟が得られたので、協力隊に参加して良かったと今振り返って実感し生活しています。



### 第27期 高知県大川村派遣 山田 朋広さん

参加時：35歳、会社員  
現在：自営業「山田のパンとコーヒー」  
同村在住

緑のふるさと協力隊の任期終了後、3年間の地域おこし協力隊の着任期間を経て、現在はパンとコーヒーの製造・移動販売を個人事業として行なっています。緑の1年間では、自分の生活の糧になり、かつ対外的な商売としても成り立つ、そんな生業の種を探していました。そんな中、生活圏内に自分の食べたいようなパンが買えることがないことから、パン作りを生業にできないかと考えるようになり、フライパンで試作することから始めました。事業を行うのはやってみるとかなり大変ですが、とても充実した日々を送っています。

## 都市部での就職

### 第20期 山形県小国町派遣 樽川 美穂さん

参加時：23歳、会社員  
現在：会社員、東京都在住



百姓の生きざまを伝え、農村と都市の暮らしを繋ぐ役割を担いたいと思い、一度地元に戻りました。様々な仕事や土地での暮らしを経て、今は人口400人に満たない小さな町からこれからの暮らし方を提案する「石見銀山 群言堂」の店舗で伝え手をしています。もう少し時間をかけ、農に近い暮らしをつくりながら、手仕事や民藝の分野で仕事をつくるのが目標です！どんな仕事でもビジネス過多にはならず、山や土、暮らしの知恵などを片隅におきながら物事を考える感覚を、協力隊のたった1年間で授かったのだと感謝しています。



### 第15期 宮城県諸塚村派遣 本多 俊貴さん

参加時：22歳、大学新卒  
現在：大学講師、東京都在住

東京の複数の大学で講師をしています。主には環境、地域社会、社会学を教えています。大学生の頃からフィールドワークが好きで、農のある暮らし、農山村の暮らしと文化、あるいは東京の過密問題に関心を持っており、協力隊に参加して農山村にどっぷり浸かろうと思いました。いまは、派遣地の諸塚村をフィールドに地域社会の研究を続けており、それを学生に伝えようと試行錯誤しています。諸塚村あつての今の人生であり、これからも関わっていきたくと思っています。

活動終了後、約4割の隊員が定住します。進路について多くの隊員が語るのは、活動の経験から「生きる・働く」将来像が具体的になったということ。いくつかの仕事を組み合わせて暮らしを営んだり、地域づくり活動をステップアップさせて独立・起業したりと、新しい働き方、生き方に挑戦しています。また活動終了時は「模索中」でも、数か月後には都市や農山村で進路を見つける人がほとんどです。地域との信頼関係やつながり、経験が自分らしい選択を後押ししてくれます。

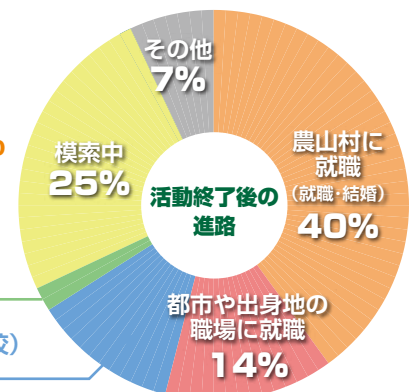
## 活動終了後、こんな仕事・進路をえらんでいます

農業(百姓、農業法人、農家レストラン)、森林組合、漁業、地域づくりコーディネーター、地域おこし協力隊、集落支援員、手仕事・職人(竹細工、茅葺き、革製品作家、木工)、大工、行政(県職員、市町村職員、外交官)、観光協会、社会福祉協議会、NPO法人、教員(小学校、高校、大学)、塾講師、研究者、企業、新聞社、出版社、カメラマン、道の駅等観光施設、国立公園管理事務所、介護福祉、障害者福祉施設、図書館、市議会議員など

農山村への  
定住者  
約 **40%**

海外・国内  
ボランティア  
活動に参加  
**2%**

復学(大学・専門学校)  
**12%**



3月活動終了時調査 1994年度(第1期) - 2023年度(第30期) / 843名

# 協力隊を受け入れてみて

## 受入先の声

### 山形県小国町 総務企画課 佐藤 友春課長

当町では、これまで15年間で18人の隊員が活動しています。受入当初は、地域にうまくなじめるか、また地域の皆さんが面倒みしてくれるか、不安がありました。隊員それぞれの個性が、地域に新たな風を吹かせていて、今では欠かせない存在になっています。一人の若者が1年間知らない地域で生活し、活動する。そこで日常的な交流が生まれる。このことが地域に化学反応をもたらすきっかけになっていると感じます。



### 岡山県鏡野町 一般社団法人富ふるさと公社 森本 博一さん

見知らぬ土地での慣れない暮らしや初めての体験など、初めは毎日が新鮮だけれど、どんどん入ってくる情報量にキャパオーバー気味。少しずつ慣れてくると、ぐっと地域にもとけこみ、本当に多くの住民と親しく話をしている。勇気を出して飛び込んでみる、まずやってみる、がどんどん成長に繋がる。若者が一生懸命取り組む姿に私達も刺激を受け、若者の成長と共に地域も育つ。地域にとっても無くてはならない事業だと感じています。



### 福井県坂井市 集落支援員 竹内 作左工門さん

四方が山に囲まれた小さな集落で、隊員は何もわからないまま、地域住民の協力を得ながら活動します。活動するうえで一番大切なことは「人間関係を大切すること」。隊員の個性を活かしながら地域内の色々な行事に参加、また自然環境の豊かな地で野生の動植物に触れる体験をすることで命の大切さを隊員たちは感じています。地域で活躍しているOB、OGの協力を得ながら、高齢化世代と交代でこれから隊員が地域の担い手として活躍してくれることに感謝しています。

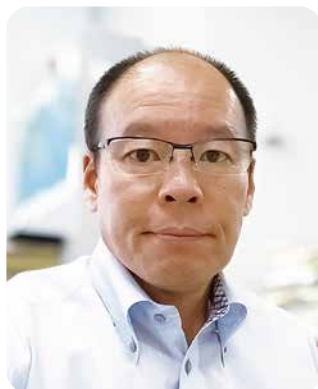


### 宮崎県日之影町 わら細工職人 たくぼ主宰 甲斐 陽一郎さん

山里に生きる手仕事に興味を持ち、わら細工をしている我が家に足繁く通ってもらいました。米作りや藁の確保作業、年末のしめ縄作りまで、一緒に作業をしながら見てきた景色は、日本人がもう一度大切にしたいものではないかと思えます。民藝のことについて語り合い、共に作業に没頭した日々。この1年間、良き仲間が傍にいたという感覚です。



## 応援メッセージ



### 全国町村会 経済農林部 小野 文明部長

## 「農山村は可能性の宝庫」

緑のふるさと協力隊員が活動する地域は可能性の宝庫です。長年、応募してくる人たちの「ビフォー・アフター」を見てきました。隊員は皆、活動後、変身したかのように成長します。自身の潜在能力が開花したと同時に、隊員を見守り、育ててきた地域の力をいつも感じます。住民となって暮らし、人々との触れ合いを通じ、自分の居場所を見つけた隊員は、移住先や、いつでも戻ることのできる「ふるさと」に出会います。自治体にとっても、隊員との触れ合いが、地域の価値の見つめ直しや活力源になっています。「緑のふるさと協力隊」への参加は、地域の可能性を拓けるきっかけになります。是非とも一度、扉をたたいてみてください。

## 「勇気、想像力、少しのおカネ」

緑のふるさと協力隊は、応募する若者と受入自治体双方のマッチングで成立する。しかし、大卒就職者の3割が3年以内に転職する中、生活や効果への不安から応募を迷う若者が多いのも事実だ。自治体側も受入効果や地域おこし協力隊との比較等で受入を迷うことも多いだろう。だが、本協力隊30年超の実績には、双方の不安を払拭する力がある。受入累計856人の実に4割は1年間の派遣後に受入自治体に定着するなど、効果は双方に及んでいる。しかも、地元負担は隊員の生活費月額約5.5万円と住居等だけだ。本協力隊を検討中の若者と自治体に喜劇王チャップリンの言葉を捧げたい。人生(本協力隊)に必要なのは、勇気と想像力と、そして少しのおカネだ。

### 特定非営利活動法人 中山間地域フォーラム 理事 柴田 寛



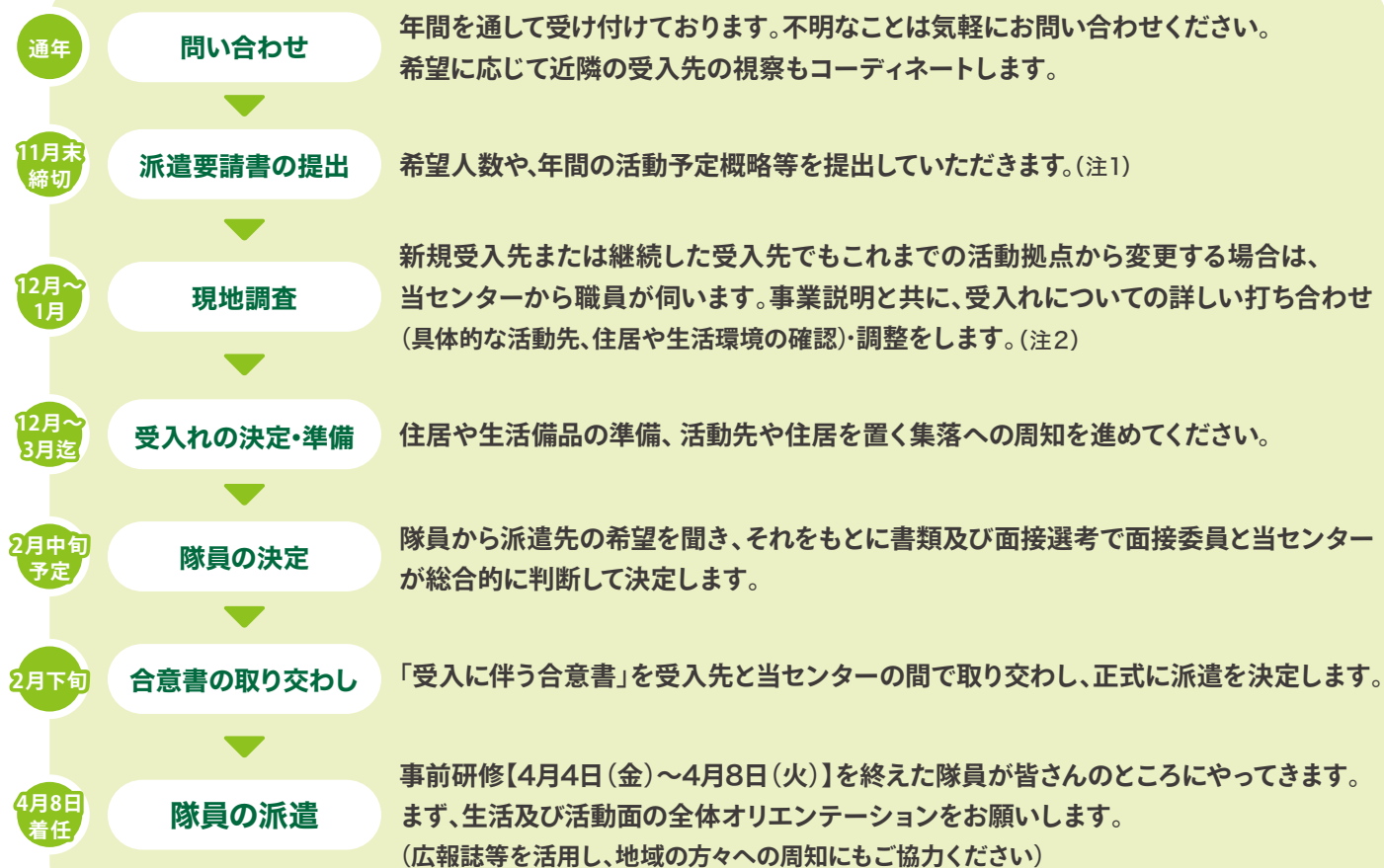
# 受入れの概要

## 受入れの手順及び条件について

### 1. 協力隊を受け入れるにあたって

隊員は、受入先の地域活性化のために活動しますが、専門的な技術や知識をもっているわけではありません。受入先には、地域活性化に資する活動プログラムをあらかじめご用意いただき、隊員は必要に応じて助言・指導を受けながら活動を進めていくことになります。しかし、隊員は「お客様」でないので過保護にする必要はありません。反対に隊員に活動を一任するなど「何でもできる」「良い提案をしてくれる」というような過大評価や、「嫁に来てくれる」「定住してくれる」といったような思いこみは、お互いのプレッシャーとなります。また、「地域の役に立ちたい」「地域貢献の中でこれからの生き方を見つけたい」と熱意を持って参加する若者を安易にアルバイトのような「安い労働力」としてとらえてしまうことは、お互いにとって不幸な結果につながります。

### 2. 受入れまでの手順



※注1：隊員の応募状況により、11月末の締切以降も受入先の募集を継続する場合があります。当センター事務局までお問合せください。

※注2：新規受入れ等による現地調査にかかる費用(旅費交通費等)は、各受入先にてご負担いただきます。

### 3. 受入先応募の基準

受入先窓口は市町村役場もしくは公社など自治体の公的団体とします。それは、この事業が若者の社会貢献の場であるという目的から、特定の企業や個人のための活動でなく、地域全体のための協力活動が基本になるからです。なお、個別の活動であっても受入先の調整によって公共性を持たせることが可能であれば、個人農家やNPOなども活動対象となります。

## 4. 経費及び準備について

※「定額」:当センターが指定した金額、「受入先」:受入先が指定した金額及び条件

### (1) 受入先の負担

項目	区分※	年額	詳細
正会員(団体会員)費	定額	50,000円	受入先の自治体(もしくは団体)は、当センターの正会員(団体会員)としてご入会いただきます。
隊員の生活費	定額	660,000円 隊員1人あたり	月額55,000円(食費・保健衛生費等) 毎月末、当センターから隊員へ送金します。
派遣事務費	定額	900,000円(予定) 隊員1人あたり	派遣費・調整費・募集広報費等
研修費	定額	35,000円 隊員1人あたり	中間研修・総括研修の参加費(宿泊・食事代等)
[活動報告会] 協力負担金	定額	30,000円	総括研修の一環として開催する「活動報告会」のプログラム運営協力金です。隊員が受入先ごとにブースをつくり、1年間で感じたこと、市町村の魅力・物産紹介、農山村の現状などを発信する場です。(隊員3名以上の受入先は60,000円)
[受入先担当者会議] 負担金及び旅費		負担金10,000円 (旅費は実費)	当センター及び受入先同士の情報交換とともに、事業の理解を深める会議です。東京にて、5月～6月頃開催予定です。詳細は事前にご案内します。
[ブロック交流会] 参加費及び旅費		参加費12,000円 (旅費は実費)	受入先近隣市町村の隊員及び担当者同士が集まり情報交換を行ないます。10～11月頃開催予定です。参加費は1名12,000円程度(旅費は受入先負担)。詳細は事前にご案内します。
住居及び居住費	受入先		賃料、水道光熱費 ※詳細は下記をご確認ください。
生活備品費	受入先		生活の基本的な備品の準備 ※詳細は下記をご確認ください。
移動費	受入先		活動に必要な移動手段の確保。移動用として必ず車をご用意ください(ガソリン代含む)。それに伴い、自賠責保険・任意保険(免責なし)にも必ずご加入ください。
活動費	受入先		活動に必要な資機材費等 作業着・長靴等は、中古品でかまいませんのでご用意頂けると助かります。
研修交通費	受入先		事前研修地から受入先自治体までの交通費、中間研修参加のための往復交通費、受入先から総括研修地までの交通費。
活動報告会 出席のための費用			東京にて3月中旬頃開催予定です。受入先の皆様万事お繰り合わせ上、ぜひご参加ください。(参加費無料、旅費は受入先負担)
その他			受入先と当センターが必要と認めた経費。レポート・ふるさと通信等の通信費、コピー代等。刈払機等、動力を活動で使用する場合の講習費、保険費等(詳細はP8)
受入先現地調査費			新規受け入れ、または継続して受け入れる受入先で活動拠点となる地域が変わる場合の当センター職員による現地調査実施に関わる費用。(東京～受入先の往復交通費、調査費等)

◎地球緑化センターへの納入額合計(予定):1,675,000円(年額・隊員1名の場合)※定額のみ。その他については実施毎にご請求いたします。  
◎事業に係る総額(地球緑化センターへの納入額、住居費、移動手段の確保、旅費等すべて含む):概ね200万円前後の予算が想定されます。  
受入先でご準備いただく住居や生活備品の確保の仕方、旅費等で上下します。◎経費の一部について、地域おこし協力隊事業を活用している事例もあります。

### (2) 補足説明

#### 〈経費納入の方法〉

区分が「定額」の経費については、請求書をお送りしますので、それに応じて当センターまでご入金ください。なお、隊員生活費については、事前にまとめて納入していただいた分を、当センターから隊員へ毎月末日、送金します。

#### 〈基本的な生活備品〉

生活の基本的な備品をご用意ください。使えるものであれば中古品で十分です。寝具・炊事用具(食器含む)・冷蔵庫・洗濯機・冷暖房器具は必ずご用意ください。隊員が、着替え等自分の身の回りのものだけ持参してすぐに活動にとりかかれる体制にご協力ください。

※宿舎にテレビがある場合、NHK受信料については、受入先負担。

#### 〈準備していただく車について〉

町村内の買い物程度であれば、可能な範囲で活動外使用をご検討くださいますよう、お願いいたします。

#### 〈会議・交流会の参加について〉

担当者は、受入先担当者会議、ブロック交流会に必ずご参加いただきますようお願いいたします。

#### 〈その他〉

##### ①緊急連絡先について

隊員には、当センターの担当職員の携帯電話番号を知らせてあります。事故等緊急の時の場合には、受入先担当者や連携して対応します。

##### ②町内会費、自治会費、寄付行為等について

地域によっては、隊員に対して自治会費納入等を依頼されることがあるかもしれませんが、その場合、隊員は社会貢献活動にきていることをご理解いただき、免除いただきますようお願いいたします。

## 5. その他

### (1) 地球緑化センターの役割

#### ①広報・募集

- 説明会(全国主要都市)の開催
- 募集要綱、ポスター・チラシの作成および配布、掲示
- ホームページおよびSNS等による情報発信

#### ②隊員選考 ●書類選考 ●面接選考

#### ③相談業務 ●年間サポート ●現地訪問 ●電話等による相談対応

#### ④研修・会議等の企画、運営

#### ●隊員研修(事前、中間、総括) ●受入先担当者会議 ●ブロック交流会

#### ⑤受入れ体制支援 ●現地調査、打合せ等

#### ⑥保険措置(普通傷害保険・ボランティア保険)、事故対応

#### ⑦連携・協力

#### ●行政機関、専門家、大学等との協力体制づくり

#### ●協力隊OBOGや受入先のネットワークの活用

### (2) 協力隊員の負担

#### ◎このプログラムに参加するための参加費

#### ◎活動先に私物を送る際の運送費 ◎健康保険料・年金保険料

#### ◎自宅から研修地までの往復交通費 ◎自己都合による一時帰省の費用

#### ◎その他、個人事由による費用

# Q&A

## 受入先担当者の具体的な役割は何ですか？

- 担当者は、隊員の活動を計画し、調整していただくのが大きな役割です。それに伴い、打ち合わせなどを通して隊員の様子を見守り、必要に応じて活動面・生活面へのアドバイスをお願いします。  
また、可能な限り、担当課や受入先全体で協力隊の活動について共有いただき、担当職員の方が異動された場合にもスムーズに引き継いでいただけるようご協力をお願いします。

## 活動先から、隊員に現金で御礼を渡してもいいですか？

- がんばっている若者を見て、特に農家の方などはぜひお礼をしたいとおっしゃる場合が多いようです。そのようなときは、社会貢献活動という事業の主旨を先方へご説明いただき、現金のやり取りが生じないように、ご理解を得てください。しかしせっかくのご厚意ですので、食事や食材など、現金ではない形でのお心遣いをいただくことは隊員の喜びにもつながります。

## 協力隊の活動は保険でどこまで補償されますか？

- 年間を通して、隊員本人のケガや第三者に損害を与えてしまった場合などに保険措置を講じています(詳細P8)。  
ただし、チェーンソーなどの動力を使用したケガ(草刈機をのぞく)などは、ボランティア保険では対応できません。  
使用する場合は必ず事前に講習を受けさせていただくと同時に、受入先にて別途、保険加入が必要です。

## 休日はどのように設ければよいですか？

- 協力隊の休日は受入先の規定に準じます。ただし、土日のイベントや農繁期の早朝の手伝いなどの場合は、状況に応じて代休や活動時間を調整していただくようお願いいたします。また、協力隊の主な目的は受入先での地域おこし活動になるので、休日とはいえ隊員が必要以上に近隣の都市部にでかけることはふさわしくありません。

## 活動を進めていくなかで困ったときはどうすればいいですか？

- トラブルが生じたり、問題が起こったりした場合には、必要に応じて当センターが間に立ってコーディネートします。  
受入先・隊員双方にとってより良い活動になるよう、できる限りの対応をしています。

## 他の外部人材活用事業には無い、特徴・魅力は何ですか？

- この事業の大きな特徴は①地球緑化センターによる年間を通じたサポート②活動の多様性③隊員は無償で活動し、月5.5万円の生活費で自炊生活をするというところにあります。隊員は専門知識やスキルを持っていませんが、当センターが着任前の事前研修を始めとする年3回の研修で活動に向けての心構えを伝え意思をしっかりと確認し、充実した1年にするためのサポートを行います。また、多種多様な手伝いに謙虚な姿勢で取り組む隊員の一所懸命な姿を見て、地域も活気づいていきます。外から来た若者による一方的な働きかけでなく、若者が地域と共に汗を流すというこの地域密着の日々が、任期終了後の約4割の定住を後押ししているのかもしれません。

## 受け入れてみたいと思いますが、予算確保がむずかしいです。

- 受入先の中には、自主財源だけでなく特別交付税を活用するなど、それぞれの受入先の事情に合わせ工夫して予算を確保しているところが多いです。経費の一部を地域おこし協力隊事業を活用している事例もあります。それらの事例を紹介したり、提案したりすることも可能ですので、ぜひ気軽にご相談ください。

# 受入れ実績のある市町村一覧

1994年度(1期)～2024年度(31期)

## 【受入先自治体数108市町村】

★印は2024年度の受入れ自治体

北海道 (6カ所) 伊達市 (旧大滝村) 下川町 鹿追町 足寄町 新十津川町 ニセコ町	福島県 (11カ所) 塙町 飯館村 田村市 (旧滝根町) 川俣町 金山町 天栄村 鮫川村 古殿町 南会津町 (旧伊南村) 南会津町 (旧館岩村) 川内村★	福井県 (6カ所) 池田町 あわら市 大野市 坂井市★ 高浜町 美浜町	滋賀県 (3カ所) 高島市 (旧朽木村) 多賀町 甲賀市 (旧土山町)	山口県 (3カ所) 下関市 (旧豊田町) 岩国市 山口市
青森県 (1カ所) 西目屋村	山梨県 (1カ所) 南アルプス市 (旧芦安村)	京都府 (2カ所) 京丹後市 (旧弥栄町) 綾部市	徳島県 (2カ所) 上勝町 佐那河内村	
岩手県 (5カ所) 岩泉町 遠野市 (旧宮守村) 西和賀町 (旧湯田町) 住田町 一関市	長野県 (7カ所) 王滝村 小海町 北相木村 栄村 阿智村 泰阜村★ 麻績村	兵庫県 (1カ所) 多可町(旧八千代町)	香川県 (1カ所) 綾川町 (旧綾上町)	
秋田県 (1カ所) 八峰町 (旧峰浜村)	茨城県 (2カ所) 常陸太田市 (旧里美村) 常陸大宮市 (旧山方町)	和歌山県 (1カ所) かつらぎ町	高知県 (3カ所) 佐川町 大川村★ 越知町	
山形県 (9カ所) 戸沢村 尾花沢市 小国町★ 西川町 大江町 飯豊町 舟形町 酒田市 (飛鳥) 朝日町	群馬県 (6カ所) 上野村★ 神流町 南牧村 中之条町 (旧六合村) 高山村 東吾妻町	鳥取県 (2カ所) 琴浦町 (旧東伯町) 日南町	福岡県 (2カ所) 八女市 (旧星野村) 築上町 (旧椎田町)	
新潟県 (1カ所) 粟島浦村	埼玉県 (1カ所) 秩父市 (旧大滝村)	島根県 (1カ所) 雲南市 (旧掛合町)	熊本県 (2カ所) 五木村 多良木町	
	富山県 (1カ所) 高岡市	岡山県 (4カ所) 新見市 (旧大佐町) 西粟倉村 矢掛町 鏡野町 (旧奥津町)★	大分県 (2カ所) 豊後大野市 (旧大野町) 日田市	
	石川県 (1カ所) 白山市 (旧白峰村)★	静岡県 (3カ所) 伊豆市 (旧中伊豆町) 川根本町 浜松市	宮崎県 (2カ所) 日之影町★ 諸塚村★	
		広島県 (3カ所) 三原市 (旧大和町) 三次市 (旧作木村) 北広島町 (旧芸北町)	鹿児島県 (1カ所) 肝付町	
		愛知県 (6カ所) 豊田市 (旧下山村) 豊田市 (旧足助町) 豊田市 (旧稲武町) 豊根村 (旧富山村) 豊根村★ 幸田町	沖縄県 (2カ所) 東村 粟国村	

# 地球緑化センターとは

地球緑化センターは、「緑、人を育む」をテーマに、社会の在り方や人の生き方を見つめてきました。環境問題、農山村の過疎化などの社会の課題に対し、市民ひとりひとりが自ら考え行動できるよう、多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。

## 若者の長期農山村貢献活動 緑のふるさと協力隊



## 児童・生徒への環境教育活動 緑の学校



国内森林ボランティア  
山と緑の協力隊



中国での植林活動  
緑の親善大使



## 多彩なニーズに応えます

- 1 企業・組合の社会貢献活動・研修などのコーディネート
- 2 大学のゼミやサークルなどグループ活動の支援
- 3 体験学習のプログラム提供・講師派遣
- 4 自治体、行政、他団体との連携など

## 会員募集 緑で未来を育む活動を支えてください!

1993年に設立された地球緑化センターは、会員の皆様一人ひとりの思いを大切に、緑と人、人と人をつなぐ活動を続け、今年で31年目を迎えます。当団体の運営は、会員の皆様からの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。趣旨に賛同し、活動を応援して下さる方のご入会をお待ちしています。

**入会金** (入会時のみ) 1,000円

**年会費**  
正会員 ★総会の議決権あり  
個人会員 10,000円  
団体会員 50,000円

**賛助会員**  
個人会員 5,000円  
団体会員 20,000円

## 地球緑化センターの歩み

- 1993年 団体発足  
中国内モンゴルでの砂漠緑化事業がスタート
- 1994年 緑のふるさと協力隊事業スタート  
国内で初めて市町村自治体と連携を図った長期ボランティア活動を実施
- 1996年 森林ボランティア「山と緑の協力隊」スタート  
(第1回は長野県赤沢自然休養林)  
民間団体として初めて国有林で活動
- 1999年 特定非営利活動法人格を取得
- 2000年 朝日新聞社主催「第1回明日への環境賞 森林文化特別賞」受賞
- 2005年 愛知万博「地球市民村」パビリオン出展
- 2006年 オーライ!ニッポン会議主催  
「第3回オーライ!ニッポン大賞」受賞
- 2007年 緑のふるさと協力隊短期体験プログラム  
「若葉のふるさと協力隊」スタート
- 2008年 日中環境緑化交流センター(中国河北省豊寧県)開所
- 2009年 「田舎で働き隊!」事業(農林水産省)の事業実施  
主体に選定される
- 2010年 「農山村再生・若者白書2010」(農文協)刊行
- 2015年 森林ボランティア「山と緑の協力隊」  
第200回記念プログラムを開催  
(長野県赤沢自然休養林)
- 2023年 設立30周年

## 情報を発信します

- 1 機関誌「タマリスク」「緑の通信」の発行
- 2 出版物の作成、貸出、頒布
- 3 ホームページ等による情報提供
- 4 SNS、YouTube等での情報発信



## 入会方法

入会希望の方は事務局までメールまたは電話でご連絡のうえ、以下の口座へご送金ください。

- ▶郵便振替 00130-2-761479
- ▶三菱 UFJ 銀行 八重洲通支店(普) 1011076

## 正会員の特典

- ▶機関誌「タマリスク」「緑の通信」無料送付
- ▶地球緑化センター主催プログラムに優先参加、または参加費の割引があります。

## ■クレジットカード寄付の受付を開始しました

「Syncable」の寄付システムを利用し、クレジットカードでもご寄付いただけます。 <https://syncable.biz/associate/gec/>

## YouTube

緑のふるさと協力隊  
チャンネル



[https://www.youtube.com/@gec\\_midorinofurusato](https://www.youtube.com/@gec_midorinofurusato)

## note

緑のふるさと  
協力隊ブログ

